

第3回 真備地区復興計画策定委員会 議事概要

1. 会議名

第3回真備地区復興計画策定委員会

2. 開催日時

平成31年1月30日(水) 10時00分～12時00分

3. 開催場所

真備保健福祉会館3階大会議室

4. 出席者

(1) 委員(20名)

奥田隆志委員, 神崎均委員, 横溝哲委員, 黒瀬正典委員, 山口敦志委員,
坂本博委員, 中尾研一委員, 野田俊明委員, 岩崎美佳子委員, 森本常男委員,
浅野静子委員, 平子ユリ子委員, 松王資子委員, 諏訪愿一委員, 中山正明委員,
妹尾洋子委員, 佐藤通洋委員, 三村聡委員, 加藤孝明委員, 橋本成仁委員

(2) その他

オブザーバー(3名), 事務局(26名)

5. 傍聴者

5名

6. 報道機関

12社

7. 議題

- (1) 第2回真備地区復興計画策定委員会での主なご意見について
- (2) 真備地区復興ビジョン公表後の復興懇談会の開催状況について
- (3) 復興計画策定に向けた調査の実施結果(速報)について
- (4) 真備地区復興計画(素案)について
- (5) 今後の予定

8. 議事次第

- 1 開会
- 2 挨拶

3 議題

- (1) 第 2 回真備地区復興計画策定委員会での主なご意見について
- (2) 真備地区復興ビジョン公表後の復興懇談会の開催状況について
- (3) 復興計画策定に向けた調査の実施結果（速報）について
- (4) 真備地区復興計画（素案）について
- (5) 今後の予定

4 閉会

9 . 配布資料

次第，出席者名簿，配席表，

第 2 回真備地区復興計画策定委員会議事概要

資料 1 真備地区復興計画策定検討資料

資料 2 真備地区復興計画（素案）

10 . 議事概要（ 委員長， ○ 委員， □ オブザーバー， ■ 事務局）

➤ 第 2 回真備地区復興計画策定委員会での主なご意見について

異議なし

➤ 真備地区復興ビジョン公表後の復興懇談会の開催状況について

異議なし

➤ 復興計画策定に向けた調査の実施結果（速報）について

- 浸水時の緊急避難場所がたくさんあれば，自宅の近くに避難場所ができて良いとは思いますが，これまでの避難場所と比べ，どのような違いが出てくるのか。例えば，歩いて 5 分以内に住民が避難できる場所が確保できるようになったとか，危険な場所を通らず避難できるようになったなど。緊急避難場所として指定した意味を示す必要がある。

また，全体の合計避難可能人数として，約 4,700 名が収容できるようになったとあるが，遠くに避難できるようになったのでは仕方ないので，今回，身近なものとして指定されたと思う。この辺りの意味を示すことで住民は非常に安心できると思う。

それと，学校等を緊急避難場所とするが，日常的にはセキュリティー等の関係で，夜間は鍵を閉めていると思うが，何かあった時に緊急避難場所として機能するのか。

- 小学校・中学校・高校を緊急避難場所として指定した理由は，従来の避難場所だと遠い地区があるという声があったため。それぞれの学区で，一番近く，わかりやすい場所として，小・中・高校は地域のランドマークであり，普段から利用されている場所なので，緊急避難場所に指定した。

そこまでの経路についても，皆さんよくご存知だと思う。道路については今回避難した

時に道路が狭かったと言う意見も頂いているので、改善の余地はあると思う。

それから夜間の対応についても、水害であれば事前に台風等の気象情報をあらかじめ把握することができるので、緊急避難場所の受け入れ体制を準備し、夜間であっても受け入れる体制は整えていく。

- 要するに「何分で行ける」など、より身近な場所になったということをもっと強調した資料になればいいと思う。そもそも受入可能人数が足りないという話よりは、「もっと早く、もっと身近に避難できる場所を確保したい」と言うことで検討をされてきたと思うので、時間なども最終的な計画の中には盛り込んで頂ければと思う。
- 緊急避難場所について、避難可能人数は一人当たり 1 m²で計算されているが、6 畳間のスペースに 10 名を詰め込む、命からがら逃げる場所と言うことで想定をされており、最大限詰め込むとこれぐらい受け入れられるということだと思う。現実的には通路等も必要となる。また、浸水であれば、その場所にしばらく滞在するということも想定される。地震などの避難スペースは 1 人あたり 1.65 m² ~ 2 m²程度は必要となる。最大で 4,700 人の収容可能人数ということで記載をされていると思うが、現実的には収容可能人数は 3,000 人ぐらいだと思う。下限値というか、標準の場合の収容可能人数の記載も必要と思う。

次に「復興まちづくりに関する各アンケートの結果」について、今回は速報であるが、今後丁寧な分析をお願いしたい。p13 の「今後居住する予定・もしくは居住を希望する地域・地区」として、約 83%の人が真備に戻って居住したいと回答している。これは嬉しい数字である。一方で、回収率は約 58%、残りの 42%はどうかということであるが、真備に戻らないと思っている人はアンケートに回答しないかもしれない。真備に戻らない人は残りの 42%と同程度かもしれない。状況認識を正しくしないと間違ったことをしていくことになる。また、58%が戻りたいと言っているが、p15 を見ると「住宅の建替え・修繕のための資金の不足」ということで、困っている人が多い状況にある。願望では真備に戻りたい人も、現実的には真備に戻れないという問題を抱えた方々もいる。83%を楽観的に捉えると後ほど困ることになるので、慎重な分析をお願いする。

- p13 のアンケート調査の中で今後の予定を決められている方と、居住をしたいと考えている方の両方が混在している。その中で真備に戻りたい人が 81.3%ということであるが、市としては元々住んでいた方には戻って来て頂きたい。また、川の整備の進み具合や資金の事などが理由で、まだ方針を決めていない方もいるので、市としては真備に戻って来られるように、頑張りたいと思っている。
- p13, 真備には戻らないという方々が未定も含めて 17%いる。これは元々いずれは真備から出ていくことを考えていた方々なのか。災害が起こるとトレンドが加速するという話があるが、そうした方が前倒しで引っ越しをされている可能性もある。平時の真備からの転出率はどれくらいなのか。5 年間で前倒しで転出が 17%なら良いが、平時の時の転出率が 2 ~ 3%台ならこの数字は大きい。5 年間の転出率を確認してみると良い。

分析についても、きめ細やかにしていただきたい。

➤ 真備地区復興計画（素案）について

真備地区復興計画の素案ということで、ご説明を頂いた。これまで住民の皆様や委員の皆様、先生方のご意見等を踏まえた素案である。ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。

- 12-1 (p35) に具体的な取組として「川と親しみ楽しめる空間の整備」とある。呉妹地区に住んでいるが、呉妹地区は目新しいものはなく、市街化調整区域なので新しい人達が入ってこない。農業従事者も手を離れていき、少子高齢化が進んでいる地域である。2月3日にバルーンを上げる企画を立てている。気球に乗って、ちょっと真備町を見ようという企画であるが、それについて、呉妹駅の南側の河川敷は、車で行くことができ、桜公園もあるということで立地条件が非常によい。しかし、今までは河川敷でグラウンドゴルフや野球、サッカーがしたくても、小田川は一級河川なので、ネットを貼ることができない、あれはできない、これはできないという認識があった。

呉妹地区の立地条件を活かして何かできないかということを考えていたが、今までは国ができないと言っていたのに、これからは見直して頂けるのかなということを感じた。これは呉妹地区の復興の目玉となるかなと思っている。どういことをすれば、このような夢が広がるといった事につながるができるのか。教えて頂ければと思う。

- 今回、小田川の河川敷の利用ということで、これまではなかなか利用できない状況であった。例えば、高梁川では一部、河川敷を使わせて頂いている。今回、「水に親しむ親水空間」を作ると言うことで、川の事をよく知る住民と一緒に進めていきたいと言う思いが、国の方にもあるということ。親水空間として利用できる場所は、どこでもと言う話にはならないとは思いますが、親水空間を整備してもらいたいという市の意向を国に伝えている。まだ具体的にはなっていないが、国でも検討をして頂けるということに期待し今回は示している。

- 河川の中で様々な制約があることをお話頂いたが、国も河川を利用して頂くということは重要なことと考えている。また、今回は樹木伐採等で、河川にも近づきやすくなっている。今後も市と連携して、川に親しめる空間を作っていくことを進めていきたい。

今回の災害は水害と言うことでしばらく水に対して恐怖心があると思うが、「水辺の親水空間」ということで、皆さんの憩いの場所、日常の風景の中にそういったものを使っていけるような、気持ちの上でも本当の意味での復興の姿が描けると思う。

他の委員の方々いかがか。

- 復興計画の素案ということで、本当に盛りだくさんに広範囲なものが書かれている。その中で「逃げ遅れゼロのまち」という重要なキーワードが出てきており、これは是非実現しなければならない。これについて、当日、何が起こったのかについては、もう一度検証をして頂きたい。先ほど、アンケートの中で、どのように避難したかなど話があったが、そもそもなぜ今回、逃げ遅れが発生したのかということ。情報が得られたのか、そしてそれが適切に判断できたのか、これが非常に大事なところになる。情報は行政機関が収集さ

れていたと思うが、それが市民に適切な形で伝わっていたのかということ。

私も倉敷市民なので、当日の夜のことはよく覚えているが、たくさんの緊急避難情報のエリアメールがきて、それがあまりにも多く何が何だかわからない状況だった。最後の方はメールもよく見なくなった。やはり地区に対して適切な情報の流し方についても考えていかないといけない。

一方で、最近気が付いたが2月1日から「倉敷健康ポイント」というものができ、それにあたって多くの人がアプリを利用することになる。これは、行政と市民が直接的につながるメディアとなる。普段は健康ポイントであるが、災害時には、全員ではないが、それぞれの人の応じて直接的に情報を発信することができる。全員がスマートフォンを持っている訳ではないが、最近は多くの高齢者がスマートフォンを持たれているという事も事実。全員には伝わらないかもしれないが、色んなメディアで情報を適確に伝えるといった、情報の流れといった点も重要である。

また、緊急避難場所までの経路は通学路になると思うが、県内では2、3年前から水路の転落事故がよくクローズアップされる。道路冠水時には境目が見えないので、車も転落することがある。通学路についても高さがあるものが立っていないと境目がわからない。避難情報により逃げたとして、転落して亡くなれるということが発生する。水路の管理上の問題もあり、柵をなかなかつけられないといったこともあると思うが、こういった機会に是非とも通学路をベースに転落防止対策についても検討してほしい。

また、p36 ページの「未来につながるまちづくり」については、今回のような災害が起こらないようにして、復興していこうという非常に重要な視点。真備は倉敷の中心部から距離はかなり近いはずだが、移動時間は長い。鉄道を利用しようとすると、乗り換えが必要になり、結構時間がかかるといった従来からの問題もある。魅力的な地域にするために、時間・距離を短縮することについても検討をしていただければと思う。

- 今回、避難の表示についても、緊急避難場所ということで変わってくるので、地域の方々と相談しながら進めていきたいと思っている。

井原鉄道のJR乗り入れについても、元々我々も念願ではあるが、なかなか実現できない。まずは、市としては、コミュニティタクシーを新倉敷駅に接続できるよう取り組んでいる。井原鉄道についても粘り強くお願いをしていきたい。

今回水が来て私も逃げたが、水路と道路の境界がわかりにくい。例えば、雪が深い地域では、「やまね」というものがあり、電信柱等に矢印がある。コストの問題等もあるが避難経路については、地域の方々と協力して知恵を出しあって、安全・安心なまちづくりを進めてほしい。

また、井原鉄道については、大学で学生ボランティアを出した時にも、移動に時間がかかるという声を聞いた。事務局から当面のモビリティの話もあったが、住民の方の知恵を出し合っていくことがとても大切になってくるので、そのあたりの議論もしていただければと思う。

- 全体に関わるベースの部分で、p3の「復興に向けて共有する思い」というタイトルは素敵だと思った。書かれていることも非常に良く書けていると感じた。これに関連して、もう少し加えてほしい。復興に向けてより強いメッセージということで、「災害に強い地域文化をみんなで作っていく」ということが示せないか。先ほど議論にもあった「浸水」と「親水」の話であるが、水に親しむことを通して、災害に対して意識も強くするといったことも文化である。

また、地区防災計画の話もあった。地区防災計画というのは、よく行政がつくる地域防災計画の各地区版と勘違いされるが、そうでない。地域のコミュニティの人たちが地域で暮らすための共通ルールのようなもの、ここで暮らす場合はこういう常識を持って暮らすということを明文化して動かしているのが地区防災計画である。これも将来は、地域の文化として定着していくもののひとつだと思う。最終的には、災害に強い地域文化というのは、防災という事を意識していなくても、自然に防災になっている。それを目指していくというニュアンスがもっと入ってきても良いと思う。

ベースの部分の2点目としては、今一度、ハザードマップをみんなで共有した方がよいと思う。先日の復興懇談会のコメントにもあったが、絶対に水害がおこらないということはないということを前提にまちづくりに取り組む必要があるという市民の意見もあった。5年後に国の小田川付替え工事が完了し、浸水のリスクは相当下がるはずだが、ゼロになるわけではない。万が一、どのくらい浸水するのか、そうした情報を5年後ではなく、今のうちから持っていた方がよいと思う。また、県管理河川についても危険性は下がるが、万が一の場合もあるので、その時にどれくらいのリスクがあるのかを知っておくほうが良い。

次に計画に関わる部分としては、まずはp2の下図、計画期間を示す矢印について。時間軸でかかれているが、これだとすぐに立ち上がっているが、今全然立ち上がっていない。本当は、初期がやや低調で途中段階が急激に延びて、最終的には落ち着くような形ではないか。そうした絵にして頂きたい。また、この中に時間軸を入れることの最大の意義は、被災された方の人生の見通しがつけられるようになるということが非常に重要。それがわかるような図やメッセージが入っていれば良い。例えば、5年後には新生真備町のまち開きをする、3年後にはこれをやる。そうしたことが明示されると良い。

2点目が浸水対応型。本委員会の中で、浸水対応型のまちづくりということを提案させて頂いている。万が一、浸水したとしても大丈夫にするための対策をもっともっと分厚くした方がよい。それが「真備モデル」に繋がっていくのではないか。今みると、治水で守るということは書かれているし、リスクを下げるということで、逃げるということで避難場所についても書かれていた。しかしもっと他にもやることがある。例えば避難場所についても、公共施設とか避難場所として指定されている建物を浸水対応型にする。浸水しない空間を工夫して出来る限り増やしていくことも大切。

それと、避難した後が結構大変だった。自立したライフラインが供給できるように、例えば太陽電池やバッテリー、井戸など、そういうものを普段使いしながら災害時にはきち

んと機能する避難所にしておくことも必要である。今から家を修繕されると思うが、万が一浸水した際にもできるだけ被害が小さくなるような建て方をする、あるいは浸水しても復旧しやすいような建て方をする、あるいは、そうしたライフスタイルへと転換する。色々な工夫の余地があると思う。そうしたことを次の住宅再建の前に啓発していくことが必要である。例えば、ほんの少し天井を高くして、浸水しても2階が浸水しなくなる。これだけでも大きな違いが出てくる。

3 点目は、河川管理者と協力が必要であるが、避難時間を稼ぐ仕掛けをまちのなかにつくることができるのではないかとということ。例えば、河川が決壊するとしたら、先に田んぼに水を溜めて、その後に水がまちにくるようにすれば避難時間がかせげるかなと思う。シミュレーションをしてみないとわからないが。あとは、井原鉄道沿いの東西道路を少し高く嵩上げすれば、もしかしたら、浸水までの避難時間が稼げるかもしれない。これも計算してみないと分からない。コストと効果とのバランスによって決まるとは思うが、一つの視点として、検討の余地があるのではないか。

4 点目は、生活再建弱者といわれる人、真備地区で生活再建をしたいけれど、結果としてできなくて、生活を諦めてどこかへ移ってしまう人への対策について。アンケート調査を丁寧に分析した上で、生活再建弱者に絞り込んで対策を具体化すること。あわせて、現時点ではどうしようか、迷っている人が多いと想像している。複数の選択肢がある。アンケートには戻りたいと書いているが、建替えてもいいけど倉敷市内に住んでいいかなという人、この迷っている層がどっちに転ぶかで真備の未来が決まってくる。この迷っている層へのケアを対策の中に具体的に考えていく必要がある。

最後は、現在 9,000 人の方が真備町の外へ出ている。まだ、真備に戻ってきたいという気持ちはあると思うが、これが 4 年、5 年経つとどうなるかといった心配がものすごくある。こうした方々の気持ちを 5 年間繋げられるような何かを考えていくことが必要。地域や行政で何かしらの発明が必要なのではないか。

- p2 の図は竹をイメージして示しているが、ご意見を踏まえて修正する。

家を建替えるにあたっての工夫や対策が少しでも出来ていると違ってくという話など、迷っている方にどのようにすればいいのかなど色々な意見を頂いた。市としては、例えば p11 にある川の改修のスケジュールや、p26 の各公共施設の復旧等のスケジュールを復興計画に示すこととしている。懇談会の中でも、学校や身近な施設がいつ復旧するのか、市でもそれぞれは発信をしているが、なかなか一括で分かるというのはないということで、この復興計画には 1 つ 1 つの施設についてわかりやすくまとめている。学校教育施設のほとんどは 2019 年度中に再建する。また、現在プレハブ園舎のまきびの里保育園については、今後建て替える場合は場所をどこにするのかといった問い合わせも多いので、現位置での建替えを検討中であると記載している。駐車場のところで建替えを考えている。なるべく書き込めるところは書き込んでいる。

p30 の農業施設関係についても、揚排水機場や樋門など、国の査定を受け、今後の工事

を見据えて大体このくらいの時期にはできるということを、目に見える形でスケジュールを示している。

災害弱者の方が今後を検討していくにあたって重要なところとして、例えば p22 に住まいの再建として、既存の利子補給とリバースモーゲージを示している。まだ検討中ではあるが、リバースモーゲージは、元金ではなく利子の部分を毎月払っていく制度になるが、利子の部分について市からの新たな補助の仕組みを作っている。家の土地がある方についてはその土地に住みたいという方が多いと思う。アンケートでリバースモーゲージは資金面の部分で心配だと声があったので、新しい利子補給を市で検討している。

それから、7-4 の災害公営住宅については、2020 年度までにつくっていきけるようにしたいということで、詳細について検討中である。仮設住宅の入居期限が今年の 7 月から基本的に 2 年という事だったので、そこからなるべく近い時期に必要な方は災害公営住宅に入っただけのようなスケジュールで線表をひいている。

家を建替える人は、公費解体の順番が何処まで来ているか分かりにくいというご意見を頂いたため、先日から市のホームページで、申請・対応状況を公表している。状況を分かり易くして、申請を頂いたものは、今年の 9 月までには全てを終える予定である。

復興計画の中で、なるべく期日が示せるものは記載した。

- 仮設の入居期限が 2 年間、小田川合流点付替え工事が 5 年後という中で、時期のギャップがある。その中で、家の再建を予定している人達は具体的にいつ頃から住宅の再建をはじめなのか。その感触をしりたい。5 年まで待つのか、今すぐ建替えるのか。
- 既に建築を着工している人もいる。
- 公費解体が済めば、出来る限り建替えをしたいという潜在的な層がどれだけいるということか。
- 私個人の希望としては、公費解体が済めば、早く建築業者を探して準備にとりかかりたい。また、自分の周りではどうしても堤防が心配だという方がかなりおられるのも事実。堤防決壊箇所の本復旧工事が着手されて、復興が進みだしたので気持ちも少し前向きになってきていると思うが。やはり堤防が安心という保障はないが、堤防の復旧が終わってからという考え方の人もいる。気持ちとしては早く戻りたいのは事実、寂しい思いをしている。

それとお金の問題もある。少しでも天井を高くして、安全な住宅というのはよくわかる。しかし、お金がないため、2 階建てではなく平屋で夫婦が住めればよいとなる。危険を感じたらすぐに避難する、そうした覚悟をもたないと再建はできないという人もかなりいる。それと、若い人はローンを抱えて建てた人もいるため、2 重ローンに苦しむことになる。次のローンが組めない人もいる。何も負債がない人は、浸水に対応した住宅を建てる事が出来ると思うが、中々難しいのではないかなと思う。

- 逃げ遅れゼロを目指すためには、逃げなきゃいけないという意識を与えないと駄目だと思う。携帯電話が昼頃から何度も鳴っていた。最初のうちは画面を何度も確認していたが、

何回も鳴ると「またか」ということで最後は確認しないようになっていた。会社は真備支所の近くにあるが、どれが重要な情報なのか分からない中で、堤防が決壊した時、サイレンが数回鳴っただけで、そのあとは何もなかった。実際は腰が浸かるまで会社で作業、避難をしていた。その間も何もなく緊急性が全く伝わってこなかった。本当に逃げないといけない人に対し、実際に本当に必要な警告が十分に伝わっていなかったように感じる。サイレンやアナウンスができる場所は鳴らさばなし、アラートをずっとしているような形で緊急性をもっと伝えていれば、もっと多くの人が避難していたと思う。今回は数回だけのサイレンで、緊急性が伝わってこなかった。これを改善して頂ければ伝わると思う。

それと、小田川の水位がどこまできているというのが確認できないので、ホームページやアプリ等を作って水位が一目でわかるようにして欲しい。あわせて、ここが決壊した時に、どれくらい水がくるといったシミュレーションのようなものが示せれば、住んでいる人たちは逃げなきゃいけないというのが確認できる。

今回の経験を踏まえながら、素案を示し、各取組みについて議論を頂いた。このような議論を継続していくことで、より良いまちをつくり復興を目指すということが大切ではないかと思う。

個人的な意見としては、ハコをつくるということではないが、今回の災害のモニュメントという話もあったが、ありきたりのものではない道の駅的なものなど、皆さんが集まって、知恵を出し合う場（拠点）ができれば良い。

やはり地域の活性化といった視点から地域にお金が回る仕組み、行政だけでは限界があると思うので、地域の知恵を出し合っていくような取組みができればといった思いもある。

時間が近づいてきたのでまとめに入りたいが、委員の皆様、今回の意見を反映して復興計画の素案を作ることでよいか。

異議なし

事務局には今回の意見を踏まえ、復興計画の素案の策定作業を引き続き行って頂きたい。恐縮ではあるが、今後の素案の作成について、事務局との最終調整は、私（委員長）に一任させて頂きたいが、良いか。

異議なし

ありがとうございます。それでは一任させて頂きたいと思う。

では、今後の予定について事務局より説明をお願いします。

➤ 今後の予定

- 今日の意見を踏まえて、素案を作成し、2月8日から3月4日の間でパブリックコメントを実施し、意見を踏まえて復興計画の案を作成し、第4回策定委員会を開催したい。

➤ 閉会

- 以上で閉会する。ありがとうございました。